

# 逆境をバネに“挑戦と工夫”で ブロイラー経営

—百姓屋に夢をのせて—

株式会社 百姓屋（肉用鶏・佐賀県伊万里市）

## 地域の概要

佐賀県伊万里市は、人口が5万5219人（平成30年8月1日現在）で、北部九州の西部に位置し三方を山に囲まれ、伊万里湾が深く入り込んだ天然の良港を擁している。

伊万里焼をはじめ、「食のまち伊万里」の特産品である伊万里梨や伊万里牛なども全国的に有名である。

気候は、年間降水量2347mm、平均気温15.7℃と比較的温暖な気候に恵まれ、中山間地域ということもあり棚田が多く水田農業と合わせて果樹、施設園芸、畜産などと複合経営が営まれている。

## 経営管理・生産技術の特色

### 【全国トップクラスの技術レベル】

㈱百姓屋の生産指数（PS）は357.3（直近1年間では384.1とさらに向上）と高く、ブロイラーの技術成績は優秀である。毎年、実施しているブロイラー経営共励会では常にトップクラスの成績であり、平成22年には日本チャンキー協会のコンテスト（坪産肉量部門）で全国1位の成績であった。

現経営者の市丸道雄さんは飼育管理方法など常に新しいことにチャレンジし、後継者（長男）が就農後、最新式コンピューター制御のセミウインドレス鶏舎を県内で最初に導入す



百姓屋のスタッフ（右端が現経営者の市丸道雄さん）

るとともに、ほかのブロイラー農家にそのノウハウを伝達し生産技術の向上に寄与した。

一方で、親子で鶏舎ごとに名義を分けており、名義別に飼育管理・経営管理を行うことで、親子でありながら技術成績を競い合い、お互いに切磋琢磨しながら生産技術の向上を目指している。

### 【新システム鶏舎導入によるコスト低減】

平成28年、新型システム鶏舎を導入し規模拡大を行った。新型鶏舎は、間口の中央に壁を作り、鶏舎を半分に分けて最も保温が必要な入雛3日前から10日齢ころは鶏舎の半分のみを使用することで燃料費が50%低減できると考えた。実際に平成30年2月入雛で、この新型鶏舎と古い鶏舎（平成19年、平成22年建設）のガス代を比較すると、ガス代が49%低減できた。春や秋の入雛でもガス代が5分の1～3分の1程度低減できる見込みである。

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	肉用鶏出荷羽数	作付面積	経営・活動の内容
平成6年	水稲 ブロイラー	10万羽	水田44a	・現経営者が、会社退職後、就農。経営を継承する。 ・作業分担・責任分担を決定 ・複式簿記の講習会を受講
10年	水稲、花木 ブロイラー	10万羽	水稲44a 花木10a	・パソコン簿記記帳会「らくらく会」立上
13年	水稲、花苗 ブロイラー	10万羽	水稲26a 花苗22a	・伊万里市男女協働参画懇談会委員 ・家族経営協定の締結（当初）
16年	水稲、花苗 ブロイラー	10万羽	水稲26a 花苗22a	・オリジナル加工品「山ん鶏」の製造開始 （6次産業化開始） ・後継者（長女）就農
17年	水稲、花苗 ブロイラー	10万羽	水稲26a 花苗22a	・後継者（長男）就農・家族経営協定の見直し ・大雪により鶏舎倒壊。復旧作業 ・経営移譲時の負債を完済 ・伊万里グリーンツーリズム推進協議会幹事
19年	水稲、花苗 ブロイラー	18万羽	水稲26a 花苗22a	・最新式コンピューター制御セミウインドレス鶏舎建設
20年	水稲、花苗 ブロイラー	24万羽	水稲26a 花苗22a	・直売所「百姓屋」建設（国庫事業） ・第15回農業簿記利用優良経営表彰事業で優秀賞 ・第36回毎日農業記録賞 農林水産大臣賞
22年	水稲、花苗 ブロイラー	26万羽	水稲26a 花苗22a	・最新式コンピューター制御ウインドレス鶏舎建設 ・日本チャンキー協会ランキング全国1位（坪産肉量部門）
23年	水稲、花苗 ブロイラー	28万羽	水稲26a 花苗22a	・伊万里グリーンツーリズム推進協議会 畑の中のレストラン部会長（～現在）
24年	ブロイラー 花苗	30万羽	花苗22a	・株式会社 百姓屋を設立
25年	ブロイラー 花苗	30万羽	花苗22a	・伊万里グリーンツーリズム推進協議会副会長 ・農山漁村男女共同参画推進セミナー講演
26年	ブロイラー 花苗	30万羽	花苗22a	・後継者（次女）就農 ・佐賀県農業賞 農林水産大臣賞（先進的農業経営者の部）
27年	ブロイラー 花苗	30万羽	花苗22a	・農林水産祭 内閣総理大臣賞 （女性の活躍部門）
28年	ブロイラー 花苗	50万羽	花苗22a	・最新式コンピューター制御ウインドレス鶏舎建設 ・次女の夫が就農 ・佐賀県農政協議会委員 ・さが農業女性「カチカチ農楽が～」を立ち上げ
29年	ブロイラー 花苗	46万羽	花苗22a	・長男の妻が就農 ・WAP100（農業の未来をつくる女性活躍経営体100選）に選出される ・グリーンツーリズムコーディネーター資格取得
現在	ブロイラー 花苗 タマネギ	50万羽	花苗22a タマネギ 10a	・高速堆肥化装置の導入 ・おもてなしセレクションに出品、金賞を受賞

### 【「骨太有明鶏」の銘柄化への取組み】

「骨太有明鶏」は、県内のJAブロイラー生産農家が、全飼育期間、カルシウムを豊富に含んだ有明海産中心のカキ殻や抗菌性物質を含まないオリジナル飼料で飼育された高品質の若鶏で佐賀県産ブランドの主力の一つである。

当経営も生産農家の一員として、神奈川県

生協（現在の生活協同組合ユーコープ）などに出向き、消費者や流通業者と鶏肉の生産方法やコスト等について意見交換を何度も積み重ねるとともに、販売促進イベントに積極的に参加し、銘柄化への取組に尽力してきた。

### 【抗菌性物質を使用しない飼育方法を推進】

ブロイラーの管理については、消費者視線を大切に生産グループ一体となって抗菌性

(表2) 経営実績 (平成29年)

経営概要	労働力員数 (畜産)	家族	2.6人
		雇用	2.1人
	肉鶏平均飼養羽数		100,018羽
	肉鶏年間出荷羽数		469,085羽
収益性	所得率		9.8%
	肉用鶏100羽当たり生産費用		49,687円
生産性	出荷回転率		4.69回
	平均飼育日数		47.1日
	肉鶏出荷100羽当たり出荷時体重		300.8kg
	育成率		95.9%
	飼料要求率		1.72
	生体1kg当たり販売価格		174.9円
	鶏舎1㎡当たり年間出荷羽数		85.4羽
	肉鶏出荷100羽当たり投下労働時間		2.00時間

物質を一切使用しない飼料による飼育方法を推進している。そのため、病気が発生しないように、鶏舎内では常に鶏に気を配り、鶏舎内の適正な温湿度管理と通気性の確保、こまめな敷料管理（耕耘）など飼育環境の整備を行っている。

### 【6次産業化への取り組み】

「骨太有明鶏」の素晴らしさを知ってもらうために、平成16年から出荷した精肉の一部を買い戻し、オランダやドイツのコンクールで受賞経験のある県内の加工業者に依頼し、スモークチキン、ローストチキン、ウインナーというオリジナル加工品「山ん鶏」づくりに取り組んだ。塩と香辛料のみ使用するというこだわりで製造される高品質の一品であった。

「安心安全でおいしい」と口コミで広がり、



平成28年に完成した最新式ウインドレス鶏舎



オリジナル加工品 (山ん鶏)

また大手警備会社「セコム」が運営する通販事業と契約することができたこと、県内JAのアンテナショップ等でギフトとして扱われるようになったこと等で売上高を伸ばし、現在は、ファミリーマートなどのインターネット通信販売8社、高島屋や福岡三越など大手百貨店などとも取引を行っている。

### 【積極的なマーケティングと企画づくり】

加工・販売所部門では、消費動向の調査や顧客開拓に取り組み、商談会や企画書作りを積極的に行ってきた。このことにより「山ん鶏」のスモークチキンがJALの機内食に採用された。企画書作りについては、お中元シーズンにお歳暮の、お歳暮シーズンにお中元の企画を作るなど、1年を通して行なっている。

また、「山ん鶏」は、関係者からの推薦を受け、おもてなしジャパンが取り扱う「おもてなしセレクション」へも出品できるまでに、経営の看板として急成長してきている。

現在は、新たに作った女性農業者グループ「農楽が〜る (のらが〜る)」の活動の一環として、農林水産省とタニタが主催したマルシェなど、いろいろなところで開催されているマルシェに出展し、自慢の農畜産物・加工品を紹介するとともに、消費者との意見交換に力を入れられている。

### 【直売所「百姓屋」のオープン】

自ら生産した農畜産物に自信と誇りを持

ち、安全安心な製品を消費者に届けたいという強い願いから、平成20年に直売所「百姓屋」をオープンした。

補助事業申請から資金借入まで全て妻（現在の取締役）名義で行うこととしたが、当時は経営主でない女性が金融機関から単独で融資を受けた事例が少なかったため手続きは非常に難航した。

直売所では、自家製品の鶏肉加工品・花苗に加え、伊万里の農産物・加工品も販売するとともに、ランチや軽食を提供している。単に直売のみならず、消費者との対話を重視し、体験スペースがあるほか、農業者同士の交流の場、伊万里市産農畜産物のアンテナショップの役割を果たし、インターネット販売・情報発信部門（HP）との相乗効果を形成し始めている。

また、通信販売においては、「山ん鶏」と近隣の農家が生産する伊万里市産の梨、ブドウ、黒米、もち麦、茶、梅・梅加工品などとセット販売を行うことで、伊万里市を多くの人に知ってもらう取り組みを始めた。

## 耕畜連携の活動

### 【口コミによる耕畜連携への取り組み】

堆肥は、EM菌や酵母菌が含まれる菌製剤を添加しており、リサイクル敷料として活用するほか、資源循環、環境保全の面を意識して、花苗部門やグリーンツーリズムなどの活動を通して知り合った耕種農家や果樹農家に販売し、例えば「ジャガイモの皮の表面がカサカサしていない」など作物の製品化率が向上したと喜ばれている。

急激に、ブロイラーの規模拡大を行ったことから新たに48時間で堆肥化が完成する超高速堆肥化装置を導入した。短時間で有機物が低分子化され、質の良い堆肥と質の良い敷料

が製造できるようになった。

実際にマリーゴールドでその堆肥を用いた比較試験を行った結果、専門農家が見れば一目で分かるように、同装置で生産された堆肥で生育した花苗は、花芽が多く付き、徒長せずがっちりした良い苗ができた。

## 地域に対する貢献

### 【簿記記録会「らくらく会」を設立】

平成6年に親から経営を引き継いだ時に多額の負債があることが発覚し、複式簿記による経営管理が重要と考え、農業改良普及センターの経営簿記講座を妻が受講し、平成7年からパソコンによる複式簿記と申告を開始するとともに、夫婦自らが複式簿記の先駆けとして地元の他の農業者に声を掛け、平成10年にパソコンでの簿記記録会「らくらく会」を立ち上げ、農業経営の健全な発展と女性の積極的な参画を目指した。就農当初の負債は、平成17年までに計画的に全額完済した。

### 【地域農業のリーダー的な役割を実践】

伊万里市では、地域農業を発展させるための手段として認定農業者の普及を目指しており、農業改良普及センターや市役所が連携して、当経営のある波多津地区をモデルとして認定農業者を増やす取り組みを行った。当経営が認定農業者の会の会長としての行政と農業者の間に入り、自ら同志を募り認定農業者のメリットを丁寧に説明し、認定農業者制度を推進した役割は大きい。

### 【伊万里グリーンツーリズムの推進】

当経営は以前から、消費者目線での畜産物生産に取り組んでおり、安全安心な畜産物として自信のある鶏肉を地元でも食べてもらいたいと考えていた。

平成17年から、伊万里グリーンツーリズム推進協議会の活動として、消費者との交流を

通して伊万里産農産物のPR・情報発信を積極的に行われている。

この会では、「畑の中のレストラン」や「おもてなし会」を開催して「骨太有明鶏」の解体から料理・会食までを県内外の消費者と一緒にいき、本物の味を生産現場で実感してもらう取り組みを行っている。

## 生活の視点の配慮について

### 【作業分担の徹底と家族経営協定の早期締結】

平成6年に、現経営者と妻が就農し、その年のうちに、責任ある仕事をするために作業分担を決定、農業委員会会長の立ち会いのもと夫婦間で家族経営協定を結んだ。後継者が就農したときに家族の夢、経営の目標、作業分担や休日、産前産後休暇を盛り込んで見直しを行った。このことは、株式会社を設立した時に、経営理念として引き継がれている。

### 【農業への女性参画の推進】

女性の積極的な採用を行った結果、役職員のほとんどが女性となったため、従業員が安心して働けるように、産前産後・育児休暇の創設など福利厚生充実と時差出勤制度を取り入れた。

また、カーテン自動開閉装置を導入するなど機械化の推進やトイレ設置を必須にするなど作業環境の整備を図るとともに、ガーデニングコーディネーターなどの資格取得の積極的な推進や各種商談会、定期的な視察研修にスタッフを参加させるなど、そのスキルアップ・キャリア形成にも取り組み、個性を活かした会社運営を心掛けている。

### 【農村女性の地位向上の推進】

平成26年に開催された内閣官房および内閣府、佐賀県主催の「輝く女性応援会議in佐賀」



カチカチ農楽が〜の活動風景

においては、農業分野の代表として、農村女性の意識改革、地位向上に向けた取り組みを発表し、意見交換のパネラーも務めた。

さらに、農林水産省が推奨する「農業女子プロジェクト」の趣旨に賛同し平成28年に佐賀県内で初めて、さが農業女子「カチカチ農楽が〜」(女性農業者グループ)を結成し、日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を共有し、幅広い分野の方との交流・連携、販売促進活動や新たな商品・サービスの提供など農業で活躍する女性の姿を積極的に発信している。

## 将来の方向性

### 【家族が一致団結した会社運営】

平成14年の花苗が全滅した水害被害や平成17年の鶏舎倒壊被害の復旧作業を経験して、家族と仲間の大切さを実感している。

現在、会社規模も大きくなり、子ども3人とその配偶者が会社運営・業務に従事している。将来の円滑な経営移譲を目指し、財政・経営基盤の確立を重視した上で、開放鶏舎を徐々にウインドレス鶏舎に転換することで更なる規模拡大と家畜伝染性疾病に配慮した生産体系の確立を検討している。